

三原第五中学校の3年生が新聞記事で水害について議論

2026/4/27（最終更新: 2026/4/27）

広島県三原市沼田東町の第五中3年生が25日の授業参観で、地元を襲った水害について書かれた新聞記事を読んで意見交換した。NIE（教育に新聞を）の一環。

3クラスの約90人が、各教室で二つの記事を読み比べた。中国新聞社のデジタル教材「ちゅーピーまなボー」を使い、2018年の西日本豪雨と21年の大雨の被害を伝える記事を検索。読み比べると、沼田川支流の天井川が決壊した場所は18年も21年も、ほぼ同じ場所だったことに気付いた。

生徒は「21年の記事には『なぜ再発を防げなかったのか』という視点がある」などと話し合った。新出美穂教諭（35）は「同じ水害の記事でも視点に注目して読むのが大事」と説明した。

高田のはるさん（14）は「身近な災害の記事を読んで、あらためて怖いなと思った。自分にできる防災を考えたい」と話していた。

同校は今後も新聞を活用した授業を進め、ことし7月に広島市であるNIE全国大会で公開授業に臨む。（森岡恭子）



新出教諭（右から2人目）を交え新聞記事について話し合う生徒